

0歳児

担任：西村・藤森・朝倉

養護	<p>保護者と密に連絡を取りながら家庭と保育園とで無理なく安定した生活リズムを整えていった。</p> <p>慣れ保育の時期、室内での活動が多かったため、もう少し散歩に行く機会をつくっていく必要があった。</p>
教育	<p>【健康】</p> <ul style="list-style-type: none">・排泄では個々の排尿間隔を把握したうえで、一人ひとりのペースに合わせてオマル・トイレへ移行していった。・睡眠ではまとまって一定時間眠れるようになった中で、体調によって夕方寝を入れるなどの配慮をしていった。・着脱では自分でしたいという意欲を大切に介助しながらも自分でできた喜びを十分に感じられるようにした。・遊びでは移動運動が十分にできるような環境設定の中で室内でも戸外でも身体を動かして遊ぶ機会を多く作っていった。 <p>【人間関係】</p> <p>子どもの欲求を受け止め一人ひとりの子どもと丁寧に関わっていくことにより信頼関係を築いていった。子どもが他児と関わりたいという気持ちを大切に保育士が仲立ちすることによって子ども同士の関わりあいが見られるようになった。</p> <p>【環境】</p> <p>散歩のときには近所の犬に毎朝挨拶をすることを日課にしたりポニーやハトなどを見て興味を持てるように言葉掛けをしていきながら動物に親しむ気持ちを育てていった。砂や落ち葉、雪など様々な自然物に触れることによって興味を広げていった。</p> <p>【言葉】</p> <p>一人ひとりの発語に対して丁寧に応答しやりとりをしていくことにより発語を促していった。又、絵本やパネルシアターを見たり聞いたりしながら発語に繋がるようにしていった。</p> <p>【表現】</p> <p>日々の保育の中で歌や手遊びを多く取り入れ保育士と一緒に楽しみながら音楽に触れたり身体を動かす喜びを味わえるようにしていった。</p> <p>手作りの音が鳴るおもちゃを使って音楽を聴きながら音を鳴らす楽しさを共有していった。</p>

食 育	<p>個々の状態に合わせてながら栄養士と家庭と連携して離乳食を無理なく進めていった。</p> <p>その中でミルクの量は家庭と密に相談しながら調節していく必要があった。</p> <p>ゆったりとした雰囲気の中で、「モグモグ」「おいしいね」などの言葉がけをし、自分で食べようとする意欲を育てていった。</p>
--------	---

1 歳児

担任：大川・林

養 護	「自分で」という気持ちを大切に見守り、出来ないところは仕方を伝えたり手伝ったりして自分で出来たことの喜びを味わい、十分に認め、褒める事で子どもの意欲を引き出していった。
教 育	<p>【健康】</p> <ul style="list-style-type: none">・安全な場所で全身運動(走る, 跳ぶ, くぐる, など)を十分に行ったり、好きな玩具や遊具に興味を持ってごっこ遊び, しっぽとり, 肋木など様々な遊びを楽しむ。2歳児の模倣がたくさん見られ、遊びの広がりを見せる。・個々の排尿感覚を把握し、家庭との連携により無理なく布パンツへ移行を進める。失敗はまだ見られるが、出たことを言葉で伝えたりトイレで排泄がスムーズになる。・家庭でのリズムや体調を把握して、トントンしての寝入りから、保育者がそばにいて安心して一定時間入眠する。・保育者に手伝ってもらいながら行っていたが、仕方を覚え友達の真似から言葉掛けも必要ではあるが自分で行うようになる。 <p>【人間関係】</p> <p>保育者とのやりとりから友達と同じことをして楽しんだり、物の取り合いでトラブルになりながらも「かして」「いれて」「いいよ」など他児に関心を示し、模倣が見られるようになる。</p> <p>【環境】</p> <p>自然物を遊びに利用して興味が広がるようにし、探索遊びを十分に行うことができた。</p> <p>2歳児クラスと連携を取りながら、場所や玩具の環境を整える事で異年齢の遊びを見て興味を示すなど、イメージを持って遊びを広げていくことができた。</p> <p>【言葉】</p> <p>指差し, 発声から身振り, 手ぶりにより相手に伝えようとする気持ちの芽生えから単語が増え、二語文, 多語文が見られるようになる。</p> <p>絵本やリズム, 音楽, 歌を通して伝える, 伝わる楽しさを知る。</p>

	<p>【表現】</p> <p>保育者と一緒に歌ったり、手遊びをしたり、リズムに合わせて身体を動かすことを楽しんだり、散歩を通して自然の事物や様々な素材に触れることで五感を使って感じたり、イメージしたり、自由に描いたりする。</p>
食育	<p>保育者や友達と一緒に食べる中で、正しいスプーン、フォークの持ち方を個々の発達段階に合わせ徐々に伝えていくことにより自分で意識し食育活動を通して食材に興味を示し、楽しい雰囲気の中意欲的に食べるようになる。</p>

2歳児

担任：山中・外山

養護	ある程度の見通しを持ち、身の回りの事を自分で行なえるようになるが言葉掛けが必要な場面も見られる。様々な要求を受け止め保育者に親しみを持ち安心感を持って生活が出来た。
教育	<p>【健康】 楽しい雰囲気の中で、食べ物に興味を持ち姿勢を正しく自分で食べる事が大分出来るようになってくる。しかし、まだ食べこぼしがあったり、歯みがきの際、ふざけてしまう姿も見られるので、継続して見守っていく。排泄では尿意を感じたら自分でトイレに行き排泄し後始末もほぼ自分で行うが確認は保育士が行なっている。午睡は一人で布団に入り入眠出来るが個人差はある。運動面では、戸外や室内で十分身体を動かし基本的全身運動が出来るようになった。指先を使った遊びを継続して行ったり家庭での協力で、スナップボタン・上着のファスナーの全員出来るようになった。</p> <p>【人間関係】 友だちとごっこ遊びを楽しみ、役になりきり遊びが少しずつ広がって行けた。 簡単な約束事を理解し守ろうとし、遊んだ後の片付も大分出来るようになるが、 言葉掛けが必要になる場面も見られる。</p> <p>【環境】 身近な動植物に触れ親しみを持てるが、虫を怖がり慣れるまで時間がかかる。生活や遊びの中で色・数・形に興味を持っていけてが、間が空くと忘れてしまう事もある。</p> <p>【言葉】 挨拶はほぼ自分から言えるようになる。自分の思った事を言葉で伝えるようになるが、口調が乱れたり、都合が悪くなると黙ってしまう姿も見られる。絵本や紙芝居を楽しんで見たり聞いたりし、繰り返しや気に入った言葉を真似して楽しめた。</p> <p>【表現】 音楽に親しみ、聞いたり・歌ったり・身体を動かす事を楽しみ、運動体で行なった踊りは今でも皆、楽しんで生き生き踊っている。製作では様々な素材でハサミ・のり等使い作ってきたが、説明の理解不足の部分も見られたので個々に分かりやすく伝え作る楽しさ味わえた。</p>

食育	食行活動を通して様々な食材に見たり触れたりする事で、意識して食べる意欲がでたり食事の時、食材の話しで楽しい雰囲気の中で食べる事が出来た。食材の名前も覚え自分から言えるようになった。
----	--

3 歳児

担任：石垣

養 護	<p>保育者との信頼関係が築けるように、一人ひとりとコミュニケーションを沢山とるようにしていくなかで、少しずつ自分の思いを伝えられるようになると共に、</p> <p>安心して生活していけるようになった。</p> <p>気温・湿度などに留意しながら快適に過ごせるように環境を整えて、危険のないように配慮していた。</p>
教 育	<p>【健康】</p> <p>天気や気候に配慮しながら、戸外での活動を多く取り入れた。散歩では、自分から歩くペースに気を付けたり、簡単な交通ルールを知らせた。公園では、様々な遊具を使用したり、思いっきり身体を動かして遊びながら、少しずつルールのある遊びを楽しめるようにした。食事前や戸外活動後は手洗い・うがいを自分から行えるように言葉掛けをしていくと、習慣になり、自分からうがい・手洗いをするようになった。食事面では、苦手なものでも少しずつ自分から食べられるようになるが、友だちとの会話が楽しくなり、私語に夢中になってしまうこともある。又、姿勢については気を付けようとはしているが、スプーン・フォークの持ち方や食器を持つという点では、引き続き言葉掛けが必要である。</p> <p>【人間関係】</p> <p>友だちとの関わりのなかで、玩具や場所の取り合いなど様々なぶつかり合いを通し、自分の思いを相手に伝えるだけでなく、相手の思いも聞こうとするようになってきた。ルールを守ることの大切さを伝え、様々な決まりがあることを知らせた。</p> <p>【環境】</p> <p>戸外活動を通し、季節の植物に触れ、その季節の虫などにも興味を持てるように配慮した。ザリガニ釣りやトンボ捕りを経験する。自然物に触れることを楽しみ、木の実や落ち葉などを集めて遊んだり、収集したものを使用して製作も行った。冬には霜柱や氷、雪などの自然現象にも興味を持ち、親しみを持ちながら触れて楽しむことができた。身の回りの色や形に興味を持ち、ゲームをしながら色や形を友だちと一緒に探したりすることを楽しんだ。又、数にも興味を持つようになり、木の実や玩具などの数を数えたり、友だちと比べたりするようになった。</p> <p>【言葉】</p> <p>日常生活に必要な挨拶を知り、自分から挨拶をするようになってきた。友だ</p>

	<p>ちとの会話では、自分の思いを言葉にして相手に伝えるようになり相手の話も聞きながら会話を楽しむようになった。絵本や紙芝居を読んでもらうことを楽しみ、その中で気になった言葉を真似して話すようになる。保育者の話に興味を持って聞いているが時折、集中できずに他児に話しかけてしまう姿も見られる為、注意が必要である。</p> <p>【表現】</p> <p>友だちと一緒に体操や踊りを行い、リズムに合わせて身体を動かすことを楽しんだ。楽器遊びを通し、様々な楽器に触れ、音の違いを知り、鳴らすことを楽しむようになった。製作では、季節の製作などを行いながら。のりやハサミの使い方を身につけるようにした。まだ扱いが十分でない子どももいる為、個々の様子を見ながら言葉掛けが必要である。</p>
食育	<p>保育者や友だちと一緒に楽しい雰囲気の中で食事ができるように配慮した。季節の野菜の匂いをかいだり、触ったりしながら興味を持つようになり、畑活動を通し野菜を栽培することを楽しむことにより、苦手な野菜も少しずつ食べるようになった。</p> <p>調理保育では、玉葱の皮むきやいんげんのすじ取りなどを行い、調理することを楽しんだ。</p>

4 歳児

担任：森

養 護	<p>室内環境に常に留意して、子どもたちが生活や活動しやすい環境構成を心がけた。その中でも清潔と安全には十分に気を配るようにした。子どもたちの一人一人の気持ちを理解し受け止めて、安心して生活出来るようにしてきた。また生活の中での一人一人の成長を認め、子どもたち自身が自信をもってこれからも楽しく生活出来るように心がけていく。</p>
教 育	<p>【健康】 生活習慣はある程度、身について見通しをもって行動しようとする姿も見られるようになってきた。個々に応じた言葉がけは必要とするが、気温や活動によって衣服を調節することなど自分たちから行おうとしている。運動会活動を機に集団を意識するよう集団遊びやルールのある遊びを行うようにしてきた。その際、運動用具を使用した遊びを積極的に行うことにより、個々の運動遊びに対する意欲は深まり、室内においても跳び箱やマット遊びを行いたいと要求する姿が見られる。</p> <p>【人間関係】 年間を通してクラス全体の友達との関わりを深め、集団を意識して活動した。それに伴っての友達同士によるトラブルも多くなったが、子どもたちの様子を見守りながらも間に入ったりして、お互いの気持ちを代弁したりするうちに、それぞれの心の葛藤を経験することによって自分たちで解決するようになってきた。 また自己主張をするとともに他者を理解しようとするが、まだ十分に他者の気持ちを考えたり受け入れたりすることが出来ず、必要に応じて言葉がけを行う。 異年齢児との関わりは生活や遊びを通して、自分たちから関わりをもとうとしている。</p> <p>【環境】 畑活動を中心に自分たちで世話をして育てること、またそれを収穫して楽しむことにより、ひとつの生長を子どもたち自身で感じられた。そのことから自分たちの命のために食べ物があり、その食べ物にも命があるという命の大切さを理解するよにもなった。園外での活動時に自然の変化から季節の変化を感じるように、自然を見たり触れたりする機会を大切にした。個人差はあるが自分たちから季節の変化を感じているような話をしている様子が見られるようになった。また数や文字に対する関心も深まり、時計を意識して活動する姿が増えてきた。</p>

	<p>【言語】</p> <p>進級当初、クラス全体に紙芝居や絵本を集中して見る事が出来ない様子があったため、出来るだけ読み聞かせの時間を多く設けるようにし、ひとつのシリーズを繰り返し読み聞かせることによって、内容や意図していることを十分に感じる事が出来るようにした。現在は子どもたち全員が紙芝居・絵本・素話を集中して見たり聴いたりしている。話の内容からイメージを広げて、話の続きを想像したり作ったりすることは個々に応じた言葉がけ行っ、イメージを広げて想像する楽しさを感じる事が出来るようにしている。日常生活に必要な言葉はほとんど身につけ、会話を楽しんでいる。個人差はあるが長文の理解力も深まり、文章を覚えることも早くなってきた。</p> <p>【表現】</p> <p>年間を通して音楽鑑賞を行うことにより、曲に合わせて楽器のリズムを模倣してみたりとリズムの楽しさを感じている様子が見られる。歌の指導は歌詞の内容を理解しやすいように歌詞を語りかけるように指導することにより、覚えも早くなり、うたうことの楽しさを感じてしっかりとうたうようになった。絵画製作は最後まで自分で仕上げる気持ちを大切に育ててきたため、活動途中で投げ出すこともなく、多少の個人差はあるが、ひとつひとつを丁寧に最後まで自分で仕上げようとしている。</p> <p>表現遊びは他児の前で自分の考えや思ったことを発表する恥ずかしさが、まだまだ十分に見られるが、その中でも自分たちの意見を出し合って表現する楽しさを感じれるようになった。</p>
食育	<p>年間を通しての三色群活動により食に対する興味も強くなり、食材に対する関心が深まった。苦手なものでも自分から食べようとし、三角食べや食事のマナーなど基本的な食事態度も身につけてきたが、まだ個別に言葉がけを必要とするところもある。1月中旬より使用している箸は、十分に使いこなせていないところもあるため、個々の状態を見て個人的に言葉がけを行っている。年間を通して調理保育を行うことにより、作る過程を知り自分たちで切ったもの作ったものを食することの喜びを感じている。</p>

5歳児

担任：小林 善樹

養 護	子ども一人一人の気持ちを受け止めながら、安心感を持ち登園し活動に参加出来るように努めた。また、生活環境を整えると共に保健に十分に留意しながら安全で健康的に過ごせるように留意した。
教 育	<p>【健康】 基本的な生活習慣が身に付き、自分のことは自分で出来るようになる。また、健康や衛生面にも関心を持ち、それらに必要な習慣も身に付けることが出来る。 運動では皆が体を動かすことを楽しんでいて、十分に動かしきれていない子どももおり、運動の内容によっては向き不向きが目立ってしまう場面も見られるが、最後まで諦めない気持ちは皆持つことが出来ていた。</p> <p>【人間関係】 年度初めは皆で協力して一つのことに向って活動するという意識が弱い部分もあったが、日々の活動、夏合宿、運動会、発表会、雪合宿と様々な経験を皆で経験したことで、仲間意識や思いやりの心も育ち、異年齢の友達にも優しくする姿が多々見られるようになる。</p> <p>【環境】 年間を通して、散歩等から四季折々の季節に肌で触れ、季節の移り変わりやその季節の特徴などの理解を深めることが出来た。また、行事や祭日等の由来などを皆で話したり考えたりする中で日本の伝統についても興味を持ち理解を深めることが出来る。</p> <p>【言葉】 年間を通して絵本や紙芝居、素話を見たり聞いたりすることで、イメージを広げ、子ども達自身でも話を作ったりすることが出来るようになる。また、自分の考えや思いを言葉にして友達に伝えると共に相手の言うことも聞けるようになる。 文字の認識では十分に理解できていない子どもが数名見られ、様々な方法で認識を深められるように指導を行う。</p> <p>【表現】 表現では、一人一人の個性を尊重し、自由な表現を引き出せるように努めた。 一人で身体表現をする事を恥ずかしがる子どもも多かったが、友達と一緒になら大丈夫と楽しんで表現することができていた。絵画では友達がどのような作品かが気になってしまい自分の作品に集中出来ない姿も見られる。</p>

	音楽表現では、音色に親しみながら楽器の扱いも十分に理解を深めようとしていた。
食育	毎月の調理保育で、包丁の扱い方や、食材の切り方を学び、季節の野菜紹介、畑や米活動で自分達で育てた物を食したりと、食材に多く触れられたと思う。また日々の給食の際に三色群を行い、食物の栄養等についても理解を深める。

保健事業報告

【児童の健康診断について】

乳児健診、全園児健診ともに、基本的には第3木曜日で行われた。

【健康状態の観察】

保健部会、朝礼、終礼を通して、朝の視診、受入について職員間で統一出来た。

【投薬について】

塗り薬は、与薬依頼書を受けて処置を行う予定であったが、21年度は申請はなかった。

【症状の対応・事故防止のための取組み】

年間の保健部会時に、治癒証明書・通知書について、外傷・打撲について、ケイレン時の対応・誤飲・口腔内の怪我について、骨折・火傷について、知識の確認を行った。

【虐待などへの対応】

平成21年度には、身体的虐待の報告確認はなかった。

その他、性的・心理的・ネグレクトといった虐待もあるために気づきにくく発見しづらい問題でもあるためにポイントに沿って、平成22年度も観察を続けていく。

(保護者の観察も重要になる為に、保育士との情報交換をしていく)

【疾病への対応】

保護者会や保健だより等で、毎日の緊急の際の連絡先の確認について発信していたために、連絡についてはスムーズに行えた。

【怪我の対応】

21年度より擦り傷等は湿潤療法にて行う。

【保健部会】

日 時 毎週水曜日 (13時30分～14時15分) →途中より金曜日に実施

参加者 乳児、幼児各担任、看護師、栄養士

※参加の出来なかった職員に関しては職員会議でフィードバックする。

目 的 主に、看護師と保育士の保健に関して。

各月の病欠・子どもの健康面・保健指導・保健連絡の場として活用できた。

引続き内容を検討し、充実させていきたい。

【保健指導について】

◎園児対応

指導として、歯磨き・風邪予防(手洗い、うがい)・咀嚼について行った。

歯磨きに関しては、春・秋の定期歯科健診の結果から、口腔内清掃状態の不良の子どもの増加を止めるための取組みとして1歳児からの歯磨き実施、繰り返し定期的な指導に加えて、幼児クラスでは食後の歯磨き点検を行った。

いずれの指導に関しても、紙芝居を使ったりして子どもにわかりやすい内容を心がけ保育士とともに指導していった。

◎職員対応

【症状の対応・事故防止のための取組み】でも挙げたように、年間の保健部会時に治癒証明書・通知書について、外傷・打撲について、ケイレン時の対応・誤飲・口腔内の怪我について、骨折・火傷について知識の提供を行った。

また、各病気に関して、ヘルニア・いちご状血管腫・プール熱・手足口病・ヘルパンギーナ・蕁麻疹・アトピー性皮膚炎・喘息・斜視・RSウイルス感染症・その時々のある、子どもに起こった病気についての知識をその月内で行えるように継続していきたい。

【身体測定の結果について】

個人表での、結果報告を行った。